



## 新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



### 項目名

- 結核菌IFN- $\gamma$ 測定(QFT:クオンティフェロン) TB ゴールド プラス  
(依頼コード No.13210)

### 受託開始日 2019年1月7日(月) 受付分より

- 専用採血管が1本追加となり、CD4陽性T細胞に加えCD8陽性T細胞の応答を検出することが出来るようになりました。免疫機能低下例で検出感度の向上が期待されます。
- QuantiFERON TBゴールドプラス(以下QFTプラス)では、QFT-3G(従来)での判定結果のうち「判定保留」が無くなりました。

### 受託要領

依頼(報告)コード No.	13210 (親) 結核菌IFN- $\gamma$ 測定 (子) 22441 Nil値 (子) 22442 TB1値 (子) 22443 TB2値 (子) 22444 Mitogen値 (子) 22445 判定
検体必要量	血液 各1.0mL(4本)
容器	専用採血管4本
検体の保存方法	17℃~27℃室温(16時間)
所要日数	2~5
検査方法	EIA法
基準値	TB1値、TB2値: 0.35未満 判定 : (-)
単位	測定値: IU/mL
報告範囲	測定値: <0.05、0.05~10.00、>10.00 判定: (-)、(+)、判定不可
報告桁数	小数第2位
検査実施料/判断料	630点/144点(免疫学的検査)

- 当該検査の受託開始に伴い、現行の結核菌IFN- $\gamma$ 測定(QFT:クオンティフェロン)QFT-3G(依頼コード No.04771)は2019年3月30日(土)受付分をもちまして検査受託を中止させていただきます。

なお、検査結果報告書は、抗酸菌検査専用報告書から汎用報告書へ変更になります。

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社: 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3

総合研究所: 〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1

☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

検査項目検索用  
アプリ B-Book



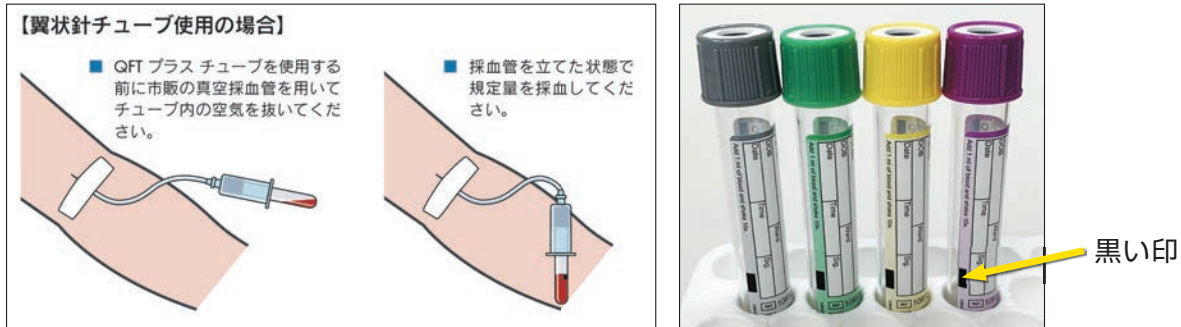
電子カルテはビー・エム・エル



## 採血方法

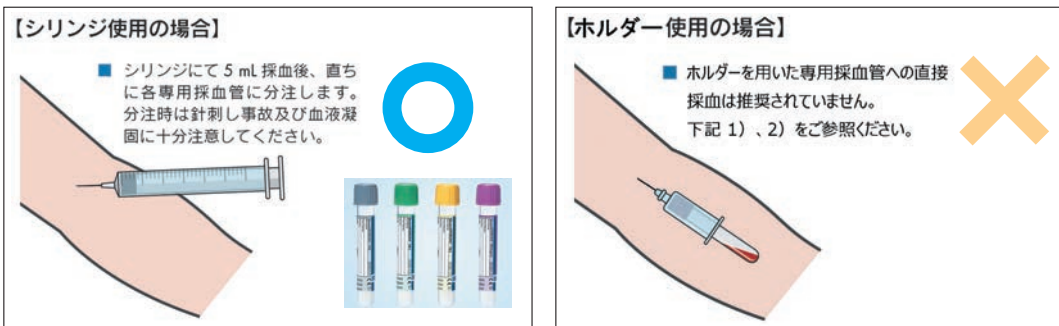
### ① 翼状針にて採血

- ・QFTプラスチューブを使用する前に市販の真空採血管を用いてチューブ内の空気を抜きます。
- ・各専用採血管を立てた状態で黒い印の範囲(0.8~1.2mL)まで目視で採血を行います。



### ② シリンジ採血後、専用採血管(4本)に分注

- ・シリンジにて5mL採血後、直ちに各専用採血管の黒い印の範囲(0.8~1.2mL)まで分注します。
- ・分注時は針刺し事故及び血液凝固に十分注意し、注射針とゴム栓を外してシリンジからQFTプラスチューブへ泡立てないように血液を分注します。
- ・分注後、同じゴム栓をQFTプラスチューブに再装着し混合操作を行います。



### ③ ヘパリンLiによる1本採血管での採血

- ・ヘパリンLiによる1本採血管のままでの受託はできませんのでご了承ください。
- 1本採取した場合は上記②に準じ、必ず各専用採血管に分注してからご提出ください。

## 採血に関する注意事項

- 1) ホルダーを用いた専用採血管への直接採血では採血管が斜めになり、適切な採血量で止めるタイミングが計りづらく、採血量が過剰、あるいは過小になる可能性がありますので、採血量が確認しやすい翼状針もしくはシリンジにて採血をしてください。
- 2) 海外と日本では採血方法が異なるため(日本では駆血帯を採血終了までつけたまま)、採血量が多くなる傾向があります。そのため、いままでのQFT-3G用の専用採血管は日本用のみ減圧度にて調整していました。QFTプラスでは、海外と同一の採血管を使用することとなりましたので、いままでと同様の方法で採血した場合、採血量が多くなり規定量の範囲を超えてしまう可能性があります。
- 3) QFTプラスチューブが室内温度(22±5℃)に戻っていることを確認してください。温度により圧力が変化し、QFTプラスチューブ内の内容物が患者に逆流するおそれがあります。また、採血時の温度が高い場合、QFTプラスチューブの分離剤が軟化し、分離剤の成分と血液が混ざり誤った結果となるおそれがあります。
- 4) 採血時にQFTプラスチューブの位置が上下に動くことにより、チューブ内圧と静脈圧の関係からQFTプラスチューブ内の内容物が患者に逆流するおそれがありますので動かさないようにしてください。
- 5) 血液が採取されたQFTプラスチューブを上下に5秒間又は10回振って混合し、内表面全体が血液で覆われていることを確認してください。QFTプラスチューブを強く振りすぎると分離剤の成分が血液と混ざり、誤った結果になるおそれがあります。
- 6) 採血は特定の順序で行う必要はありませんが、通常はQFT Nilチューブ、QFT TB1チューブ、QFT TB2チューブ、QFT Mitogenチューブの順序で行います。
- 7) QFTプラスチューブの使用期限が切れていないことを確認してください。期限切れの場合、判定結果に影響が出る可能性があります。